

生後2～3か月 ひよこクラス 安全チェックリスト



赤ちゃんの周りには危険がいっぱい。
赤ちゃん目線で安全と危険を確認してみましょう。



1. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、寝かせていますか？	はい	いいえ
2. 赤ちゃんを抱いたり、おんぶしたりする時は、周りにぶつかる危険なところがないか確認をしていますか？	はい	いいえ
3. 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理することがありますか？	はい	いいえ
4. 赤ちゃんをクーハン(カゴ)に寝かせたまま取っ手を持って、持ち上げることはありますか？	はい	いいえ
5. 赤ちゃんを抱いているとき、ドアを勢いよく閉めることがありますか？	はい	いいえ
6. ドアが開け放しになっていますか？	はい	いいえ
7. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物を置いていますか？	はい	いいえ
8. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちないようにしてありますか？	はい	いいえ
9. 敷布団は硬めの物を使用していますか？	はい	いいえ
10. ベビーベッドの柵とマットレスの間に隙間がありますか？	はい	いいえ
11. ベビーベッドの柵はいつも上げていますか？	はい	いいえ
12. テーブル、ソファーなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか？	はい	いいえ
13. 入浴中の赤ちゃんから目を離すことがありますか？	はい	いいえ
14. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか？	はい	いいえ
15. 赤ちゃん用品は、月齢や使用目的にあったものを選び、取扱書をよく読んでいますか？	はい	いいえ
☆チェック後は事故防止のポイント(別紙)をご覧ください。		

【事故防止URLにアクセスしてみよう！】事故予防や事故事例の情報が得られます。

○厚生労働省

子どもの事故防止について



○消費者庁

子どもを事故から守る！
事故防止ポータル





事故防止のポイント！

1. 母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせ、寝かせていますか？



母乳やミルクを飲んだ後は、排気が十分でないと母乳・ミルクを戻してしまい、口の中に吐物が残って窒息の危険があります。吐いた物がのどや気管に詰まらないように寝かせ、寝かせてから10～15分くらいは気をつけてみるようにします。

母乳やミルクを飲ませた後はゲップをさせて寝かせる。口の中に吐物がないか確認する。



2. 赤ちゃんを抱いたり、おんぶしたりする時は、周りにぶつかる危険なところがないか確認をしていますか？



赤ちゃんをおぶって車に乗り込む時、頭を入り口にぶつかけたり、抱いて立ち上がりようとして机にぶつかけたりする危険があります。

赤ちゃんを抱いたり、おんぶしたりする時は、まわりにぶつかる危険なところがないか、安全を確認してから行動する。



3. 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理することがありますか？



生後3～5か月にかけて赤ちゃんは物をつかむことができるようになります。特に、大人の持っている物には手を伸ばそうとするので、ヤケドの危険があります。赤ちゃんの皮膚は大人に比べて薄く、洋服の上からでも簡単に深度の深いヤケドになってしまいます。

赤ちゃんを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり運んだりしない。



4. 赤ちゃんをクーハンに寝かせたまま、取っ手を持って、持ち上げることはありますか？

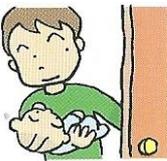


クーハン寝かせるためのもので、赤ちゃんを乗せて運ぶものではありません。取っ手を片方しか持っていないのに気づかず持ち上げて、赤ちゃんを落としたり、持ち運んでいる時に、取っ手が取れ、転落してしまう事故があります。

赤ちゃんをクーハンに寝かせたまま持ち運ばない。



5. 赤ちゃんを抱いているとき、ドアを勢いよく閉めることがありますか？



赤ちゃんの小さな指はちょっとした隙間にも簡単に入ってしまいます。ドアの隙間に指が入っているのを知らずに勢いよく閉めてしまい、手が挟まれてしまう事故があります。

ドアを開閉する時は、赤ちゃんの手の位置を確認する。



6. ドアが開け放しになっていますか？

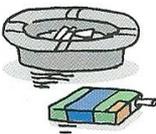


赤ちゃんをおんぶしている時に、赤ちゃんがドアをいたずらしてドアを閉めたり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まって赤ちゃんの手が挟まれてしまう事故があります。

ドアを開け放す時は、風などで急に閉まらないように、ドアストッパーなどで固定する！



7. 赤ちゃんのまわりにタバコや小物を置いていますか？



赤ちゃんは、手を口の中に入れていき、なんでも口の中に入れようとします。煙草は2cm以上飲み込むと命にかかわるといわれています。赤ちゃんの目線になって、飲み込むと危険なものがないかいつも確認する必要があります。

煙草や薬、電池など飲み込むと危険なものは手の届かない所に置く。



8. 寝ている赤ちゃんの上に、物が落ちないようにしてありますか？



テーブルの上の哺乳瓶やタンスの上の箱、ベッドの上のぬいぐるみなど、上から落ちてきたものが赤ちゃんに当たり外傷や窒息の危険があります。

寝ている赤ちゃんの上には、物が落ちてこないようにする。



9. 敷布団は硬めの物を使用していますか？



敷布団は柔らかすぎると赤ちゃんの顔が埋まってしまう、窒息の危険があります。掛布団やタオルなどが顔に深くかかっているか、寝ている間も時々みるようにします。

敷布団は硬めの物を使用し、仰向けに寝かせる。掛布団は、顔に深くかけすぎない。顔の側にタオルやガーゼは置いておかない。



10. ベビーベッドの柵とマットレスの間に隙間がありますか？



ベビーベッドの柵とマットレスや敷布団の間に、赤ちゃんの頭が入るような隙間があると、顔が挟まって動けなくなり、窒息する危険があります。隙間ができてしまう場合には、使用をやめるか、タオルなどを挟み、隙間をなくして使用します。

ベビーベッドは、ベッド柵とマットレスや敷布団の間に隙間がないか調べて使用する。



11. ベビーベッドの柵はいつも上げていますか？

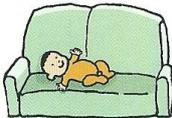


赤ちゃんの発達は早く、まだ動けないから大丈夫と思ってベッド柵を下げたまま、ミルク作りに行ったりちょっと目を離れたすきに転落事故は起こっています。

ベッドに寝かせるときは必ずベッド柵を上げておく。



12. テーブル、ソファーなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか？



赤ちゃんは手足をバタバタ激しく動かし、頭の方へずり上がったりします。寝返りができなくても、高い所に赤ちゃんを寝かせるときは、目を離すことができません。

ソファー、テーブルなどの高い所に寝かさない。赤ちゃんはバタバタ動くということを忘れずに。



13. 入浴中の赤ちゃんから目を離すことがありますか？



オムツを替えたり、授乳をしたりでお母さんは睡眠不足です。赤ちゃんと一緒に風呂に入っていたら寝をしてしまい、赤ちゃんが湯船に沈んで溺れてしまう事故があります。また、うつぶせにして体を洗っていたら、顔がお湯について溺れてしまうなどの事故があります。

入浴中の赤ちゃんから目を離さない。入浴中の赤ちゃんを一人にして、着替えを取りに行ったり、電話に出たりしない。



14. 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか？



生まれたばかりの赤ちゃんでも、抱きかかえて自動車に乗せるのは危険です。抱いていても車が衝突したり、急に止まると、乳幼児は腕から飛び出し衝撃をまともに受けてしまいます。例えばゆっくり走っていても衝撃のエネルギーは予想以上に大きく、大人の手の力では支えきれません。

車に乗せるときは、年齢に合ったチャイルドシートを後部座席に取り付け、使用する。



15. 赤ちゃん用品は、月齢や使用目的にあったものを選び、取扱書をよく読んでいますか？



赤ちゃんが使うものは全て安全の規定や基準にあっているとは限りません。S、SG、STマーク等の安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違ったり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起こります。使い方の表示や注意書きは大切で、説明書をよく読み、構造や品質に問題ないか確認して使用します。

取り扱い説明書や使用上の注意をよく読み、きちんと守って使用する。赤ちゃん用品はデザインだけでなく、安全性にも目を配る。

